

1

エ
②
ウ
③
イ
③
す
べ
き
る

つ
も
り
「
五
つ
た
」
⑥
(記述題)

ま
っ
な
い
こ
の
点
に
つ

新
し
い
「
音
図
」

植
拳
出
身

2

案
内
中
央
必
死

ウ
ウ
ア
イ

ア
イ
エ
背
が
高
い

ア
3
負
け
ん
気
の
強
い

(記述題)
イ
イ
3

1

言
語
は
お
お
よ
そ
一
〇
〇
年
を
周
期
に
変
化
を
し
て
い
る
と
い
う
と。

2

嘉
次
郎
の
腕
や
足
を
切
断
す
る
の
で
は
な
い
か
(同意可)

配点	
11021・3・4	各2点×12=24点
1629	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

1

まず、「そう」がさしている内容をはつきりさせる。「日本語は五十音図があれば書き表せる」をさしており、それに対して筆者は疑問を感じている。イはいま行われていることで、筆者の考えではない。アやウは筆者の意見の根拠であり、意見はエになる。

2 ②は「エ」の発音が五十音にないということ、③は方言では「せんせい」を「シェンシエイ」と発音するということである。「五十音図」について説明するために挙げた例なのだから、五十音図とかかわりがあるはずで、アとエはあてはまらない。

3 前後をよく読むと、いろいろな音をすべて表せると思っている、ということが書かれている。筆者はそれを否定しているのだから、「すべて表せる」を打ち消した表現をさがせばよい。

4 「すべての音を正確に書き表すこと」ができないのに、できると思っているだけなのである。「つもり」は、そうだと思っただけど本当はちがう、という場合に使うことがある。

5 「こうした表記」とは、「あ」や「ん」のように「ッ」が付かないはずの音にあえて付ける書き方をさしている。つまり、その表記で表している「音」は五十音図では表記できないということである。

6 同じ文の前半からさがしてはいけない。この文の語順を入れかえて、「このことは、一〇〇年前頃に」ということから、推測できる」とすれば、「このこと」のさしている内容は直前の一文に書かれていることだとわかる。

7 直後で『源氏物語』や『枕草子』を例に挙げており、これらは「原文ではまったく読めません」と書かれている。次の文では「柔軟に作者の意図を読み取る」ということは、ほとんど不可能」とあり、さらにその次の文で「もうまったく読めない言語」とある。

8 「彼ら」とは、たとえば『源氏物語』や『枕草子』の作者である。この段落の最後の文でふたたび「彼ら」について書かれていることに気がついてほしい。

9 この「前書き」の内容は、五十音図が不十分だということが中心だが、最後の部分で、この本のねらいが書かれている。そこに、「新しい『音図』への可能性をも模索してみよう」とある。

10 a 「植え付ける」は植物以外に、思想や印象などを心にはつきり刻み付ける意味でも使うことがある。b 「拳」の上の部分は「ツ」である。まん中から書かないこと。c 「身」の最後の左はらいはたて棒から出るように書く。

2

1 a 「案内」は、いくつか意味があるが、ここでは道や場所を知らない人をそこへ導くこと。b 「央」の最初の二面の部分を「口」のようにしてはいけない。c 「必」は筆順を確認しておこう、「死」は「歹」と「匕」を左右に分けて書かないようにすること。

2 二人を案内しているのだから当然屋敷の中の様子も知っているはずである。ただし、「わがもの顔」にすると、えんりよもせず、いばっているような感じになってしまう。

3 Iは、医者である桑閑にとって、めずらしい医療器具は興味があつたと考えられる。IIは、「おもしろい物を見せよう」と言っているのだから、ボルステルマンにとつても貴重なものだったと考えられる。IIIは、「おもしろい物」を見せたいという心情から考える。

4 Aは、「なぜあるのじゃろ」という言葉が手がかりになる。Bも、「腕や足を切断します」という言葉を聞いたのだから、おそろしく感じただろう。Cは、「なんとなくうれしかった」のでほえみかけたが、それを人に見られそうになったのである。

5 直前に「日本人の身長は」とあり、「かれ」はボルステルマンをさしているのだから、日本人に比べてボルステルマンの身長のほうが高いということを言っていることになる。

6 アは「握手」、それ以外は「万歩計」をさしている。

7 心の中のつぶやきがそのまま書かれている言葉ではないものを選ぶ。3は、話し言葉ではなく、説明の形になっている。

8 背の高さでボルステルマンに勝ったような気がしたのだろう。握手をして強くにぎられたとき、もっと強い力でにぎりかえしたのと同じ「性格」から出たものである。

9 直前の「まさか？」と思つたことが理由になっている。その前の「けが人の腕や足を切断する」ことから「まさか？」と思つたのである。

10 まちがっているものを選ぶことに注意する。あやつられているのだから、自分の感情や意志は感じられないと見るのがすなおだろう。

11 「最初の」とわざわざ言っているからには、エレキテルとの出会いはそのあともあることになる。他のものと出会ったり発明したりすることではないので、ウやエはあてはまらない。

12 1の前後ではまだ意識があるし、4でも目を開けているので2か3にしぼれるが、「気を失った」のなら「全身がしびれたようになって」という感覚もないだろう。